



1
静岡県立美術館



2

公益財団法人しずおか健康長寿財団および静岡県の主催による第22回静岡県すこやか長寿祭美術展が平成最後の開催となる1月19日(土)～27日(日)、静岡県立美術館県民ギャラリーにて開催されました。

本美術展は高齢者の創作する作品を募集、展示することにより、ふれあいと生きがいづくりを推進するとともに、高齢者の文化活動を促進することを目的に開催しています。また、今年11月に開催される「第32回全国健康福祉祭和歌山大会(ねんりんピック紀の国わかやま2019)美術展」への代表作品の選考も兼ねています。

展示作品は日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門から成り、今回は合計257点の作品が出品されました。



3
洋画部門コーナー



4
工芸・彫刻部門コーナー

審査は各部門2名ずつの審査員により選考され、優れた作品には「静岡県知事賞」、「しずおか健康長寿財団理事長賞」、「後援者特別賞(静岡新聞社・静岡放送賞、中日賞)」、「金賞」、「銀賞」、「銅賞」のほか「最高齢者賞」が授与されます。

それでは各部門の静岡県知事賞の受賞作品からご紹介してまいります。
※各寸評は各部門の審査員によるものです。



5

①



6

②

【写真①】日本画部門「溪響」 大石光枝さん(76歳 沼津市)
どっしりとした石が良く描けていて、見る者を山の奥に導いて行く。力と繊細さが有り桜の枝が空気を和ませている。素晴らしい作品です。

【写真②】洋画部門「キャット ドリーム」 大石富美枝さん(89歳 静岡市葵区)
自らの夢をネコに託して赤を基調とした空間にメルヘンを詩的に描き出した。配色、画面構成もバランスよくダイナミックだ。昨今ネコブームだが、独創的で楽しく、癒やされる。



7

③



8

④

【写真③】彫刻部門「明日(あした)」 見原 實さん(83歳 焼津市)
木彫の大作です。母と子の情愛が感じられる姿が印象的です。肩に手をかけて寄り添う子が愛らしく、ミ

ルクビんを持つ手が母のたくましさを表現しています。

【写真④】工芸部門「石華紋練込み壺」 藁科剛一さん(86歳 焼津市)
大胆な青をベースに、練り込みの技法で細かく模様が表現されている力作である。熟練した確かな技術で完成度の高い作品に仕上がっている。



8

⑤



10

⑥

【写真⑤】書部門「夕立の」 杉山弘子さん(80歳 静岡市駿河区)
起承転結の法則に添った景色を演出して見事料紙の色に合わせ文字に省略を利かせ素朴な深い味わいがある。章法の確実さと詩情豊かな力作である。

【写真⑥】写真部門「無為自然」 高橋則夫さん(69歳 沼津市)
朝の雰囲気が大変素晴らしく自然のおりなすメロディーが良いシャッターチャンスで捉えられています。前景の花も朝陽に輝き写真でありながら絵画的で県知事賞に値する素晴らしい作品です。

次に各部門のしずおか健康長寿財団理事長賞の受賞作品です。



11

⑦



12

⑧

【写真⑦】日本画部門「河を渡る」 野村温子さん(66歳 富士宮市)
モノクロームの微妙な明暗に勢いのある動物の群を配しダイナミックな画面を作っている。描きたいものを描くという作者の想いが伝わってくる。

【写真⑧】洋画部門「一隅」 松田加代子さん(71歳 袋井市)
画面の構成力、モチーフのそれぞれが生き生きと、生命が躍動し固有の存在感を表現されており、キャリアを積み重ねて来た一作はお見事です。



⑨

13



14

⑩

【写真⑨】彫刻部門「想」 松下明子さん(79歳 藤枝市)
やや身体の重心を左足に傾けて立つポーズで、シンメトリーにならない微妙な動きを持たせ、バランスを取っている。清楚な顔の表情も魅力的で、骨格のデッサンも的確だ。

【写真⑩】工芸部門「枯葉」 佐野妙子さん(90歳 静岡市駿河区)
素朴ではあるが力強い色彩です。天然染料の美を、織りの工夫の中で生かしている好感が持てる作品です。



⑪

15

【写真⑪】書部門「王維詩 觀獵」 滝川明子さん(79歳 伊豆市)
 隸体で気力溢れた円熟した筆致で心地よい。長い間積み上げた練習の成果が表出され堂々とした作品。



16

⑫

【写真⑫】写真部門「全身全霊を込めて」 仁藤政孝さん(77歳 富士市)
 全身全霊を込めて夏祭りの大太鼓と向かい合いたたき合う二人の全身から画題どおりの熱気が伝わってくる作品です。夜の撮影では何度も挑戦して、ものにできた作品だと感心しました。

次は後援者特別賞として静岡新聞社・静岡放送賞と中日賞の受賞作品です。



17



⑬ [18](#)

⑭

【写真⑬】静岡新聞社・静岡放送賞「水溜りに映る」(洋画部門)

大石廉一さん(80歳 静岡市駿河区)

水溜りに映った外界の光景から作者は独自の幻想を醸し出した。空はいつしか海底となり魚達が泳ぐ。黒い空間は満天の星空のようにも見える。日常の白日夢をみごとに造形化した。

【写真⑭】中日賞「二十歳の頃」(日本画部門) 栗原房子さん(68歳 浜松市北区)

若い女性がしっかりとした眼差しをこちらに向けて立っている。背後のS字形のレールがそれと对象的に画面に動きを与え魅力的な作品に仕上がっている。

最後は最高齢者賞です。男女とも1点ずつの受賞作品です。



[19](#)



[20](#)

⑮

⑯

【写真⑮】「雀とじじばば」(日本画部門) 西沢資寿さん(95歳 浜松市北区)

雀が仲良く描かれていて、微笑ましく感じられ、作者の優しさが伝わって来る作品です。高齢でも素晴らしい力と感性をお持ちです。

【写真⑬】「笑顔」(書部門) 山梨公子さん(94歳 静岡市清水区)
呼吸が自然で自在に筆が動いている。作者のほほ笑む姿が目に浮かぶ。素直で飾り気のない穏やかな作品。

その他、金賞、銀賞、銅賞の作品が数多く展示され、いずれも素晴らしい力作でした。

厚生労働省が公表している健康寿命で静岡県は常にトップクラスを維持していますが、その理由として、地場の食材が豊富で食生活が豊かなこと、いつもお茶をたくさん飲んでいることなどと言われておりますが、スポーツや文化活動を通じた日常的な人的交流、社会参加も重要であると言われております。今後もシニアの美術、芸術熱がますます高まり、「社会参加」につながることを期待しています。

取材: 静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章